

9. 北海道家畜管理研究会シンポジウム

日時：12月4日(木) 於：札幌エルプラザ ホール

テーマ：外国産飼料に頼らない北海道畜産を目指して

I 話題提供

1. 飼料を取り巻く情勢と価格高騰への対応 三輪達雄 (全酪連 購買部)

世界の穀物収穫面積は減少しており、これを収量増で補完している。今後は品種改良・遺伝子組み換えが進む。未利用資源の活用では、安全性、質的・量的な安定供給、水分を考慮した適切な価格に留意点がある。消費者重視とは、低コスト生産による安価な供給で、安全・安心、自給率の向上と環境に優しい農業生産がキーワード。酪農家は経営能力を上げないと技術力が活かさない状況にある。

2. 草地酪農における道産飼料 100%の乳牛飼養法 昆野大次 (根釧農業試験場)

輸入飼料に頼らない乳牛飼養法の試験成果を報告。規格外小麦(15.5%)、米ヌカ(6%)、フスマ、ビートパルプなどの道産農業副産物と放牧を取り入れた乳生産で1乳期 8,000kg の乳生産が実現可能であった。

3. 十勝におけるエコフィード活用への取り組み 吉川 要 (十勝ライブストックマネジメント)

パンくず、小麦粉などの食品加工残渣物や規格外ニンジンサイレージ化したものを加えたTMRを給与して牛群平均乳量 11,000kg を達成している事例の紹介。ニンジンサイレージは嗜好性が高く、採食量の向上、牛の健康状態・繁殖成績の向上がみられた。このエコフィードは飼料費の節減と共に牛群健康維持への効果が顕著であった。

II 討論